

株式会社やまや

2022年3月期

第2四半期

決算説明資料

2021年4月1日～9月30日



宮城県仙台市宮城野区榴岡3丁目4-1

アゼリアヒルズ19階

TEL 022-742-3111(総務部)

FAX 022-742-3100

第1部：連結 2022年3月期 第2四半期の業績

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期の売上高・売上総利益・販管費については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

連結 2022年3月期 第2四半期実績

●連結 2022年3月期 第2四半期実績

- 売上高 702.4億円
- 営業利益 1.0億円
- 経常利益 61.0億円(前年同期比 +1821.7%)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 27.9億円
- EBITDA 68.2億円(前年同期比 +408.5%)

※EBITDA=経常利益+支払利息+減価償却費
+のれん償却額

単位(百万円)

項目	第2四半期累計(前年)		第2四半期累計(当年)					
	実績	構成比	業績予想	構成比	実績	構成比	予想比	前期比
売上高	76,695	-	69,000	-	70,243	-	2.5%	-
売上総利益	19,277	25.1%	16,291	23.6%	15,914	22.6%	0.1%	-
販管費	20,174	26.3%	16,661	24.1%	15,804	22.5%	△2.7%	-
営業利益	△896	△1.1%	△370	-	109	0.2%	-	-
経常利益	317	0.4%	4,700	6.8%	6,101	8.69%	29.8%	1,821.7%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△145	△0.1%	2,200	3.2%	2,794	4.0%	27.0%	-
EBITDA	1,341	1.7%	-	-	6,822	9.7%	-	408.5%

補足：収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財 又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。収益認識会計基準等の 適用による主な変更点は以下のとおりです。

(他社ポイント制度)

売上時に付与した他社ポイントについて、従来は販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、顧客から受け取る額から取引先へ支払う額を控除した純額で収益を認識する方法へ変更しております。

(有償支給取引)

有償支給取引について、従来は、有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。なお、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品の国内の販売において、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は451百万円減少し、売上原価が50百万円減少、販売費及び一般管理費は401百万円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。

セグメント別 2022年3月期 第2四半期実績

●酒販事業 2022年3月期 第2四半期実績

- 売上高 665.7億円(前年同期比 +4.3%)
- 営業利益 24.5億円(前年同期比 ▲24.4%)

●外食事業 2022年3月期 第2四半期実績

- 売上高 38.1億円(前年同期比 +48.5%)
- 営業利益 ▲23.5億円(前年同期比 -)

※酒販事業の月別売上・客数推移については19ページを、
外食事業の月別売上・客数推移については25ページをご覧ください。

単位(百万円)

項目	第2四半期累計(前年)				第2四半期累計(当年)					
	酒販事業		外食事業		酒販事業			外食事業		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	前期比	実績	構成比	前期比
売上高	69,592	-	7,411	-	66,574	-	-	3,814	-	-
売上総利益	14,420	20.7%	4,882	65.9%	13,428	20.2%	-	2,508	65.8%	-
販管費	11,168	16.0%	9,037	121.9%	10,969	16.5%	-	4,863	127.5%	-
営業利益	3,251	4.7%	△4,155	-	2,458	3.7%	△24.4%	△2,354	-	-

チムニー(株)決算数値と当社連結時の数値の相違について

単位(百万円)

項目	チムニー(株) 決算数値	やまや連結に至る会計処理						やまや 連結 計上数値
	2021年 4~9月実績	(注①) 改装閉店損失を特別 損失より営業外費用 へ振替	(注②) チムニー(株) のれん償却費減算	(注③) チムニー子会社化による のれん償却額加算	(注④) 非支配株主に帰属 する四半期純利益 の計上	(注⑤) 繰上り持分法 投資損失減産	(①~⑤計) 会計処理による調整 額合計	
売上高	2,925	-	-	-	-	-	-	2,925
売上総利益	2,081	-	-	-	-	-	-	2,081
販管費	4,573	-	△235	75	-	-	△160	4,413
営業利益	△2,491	-	235	△75	-	-	160	2,332
経常利益	3,299	△11	235	△75	-	-	149	3,448
税引前利益	1,820	-	235	△75	-	-	160	1,980
法人税等	5	-	-	-	-	-	-	5
非支配株主に帰属 する四半期純利益	△0	-	-	-	1,008	-	1,008	1,008
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,815	-	235	△75	△1,008	-	△848	967

- 注① チムニー(株)では、改装・閉店損失が特別損失に計上されておりますが、当社会計基準に合わせ、営業外費用へ振替を行っております。(営業外費用の増加及び特別損失の減少のため、経常利益のみ△11百万の影響、税引前利益以下には影響なし)
- 注② チムニー(株)実績には「のれん償却」が含まれておりますが、チムニー株式取得による連結のれん算定時の純資産にはチムニー(株)としての「のれん」を含めておりませんので、チムニー(株)としての「のれん償却」を消去しております。(4月~9月で235百万円)
- 注③ チムニー株式取得による連結のれんが128億円計上され、これを20年均等償却としており、償却額は年間6.4億円でしたが、前第3四半期に64億円減損したことに伴い、75百万円の計上となっております。償却額は年間1.5億円となります。
- 注④ 当社の2021年3月末のチムニー株の議決権比率は50.9%であるため、49.1%が非支配株主持分となります。このためチムニー(株)の当期純利益1,815百万円に、(注②)チムニー(株)のれん償却減算235百万円を加えた424百万円の49.0%である1,008百万円が非支配株主に帰属する四半期純利益に計上されます。

連結財務状況 2022年3月期 第2四半期(バランスシート)

- 総資産 602.0億円 (前期末比 +25.8億円)
- 負債 324.0億円 (前期末比 ▲8.2億円)
- 純資産 277.9億円 (前期末比 +34.1億円)

単位(百万円)

	'21年3月期 期末	'22年3月期 第2四半期末	前期末比
流動資産	32,537	36,033	+3,496
固定資産	25,076	24,169	▲907
流動負債	28,133	25,309	▲2,824
固定負債	5,102	7,100	+1,998
純資産	24,378	27,793	+3,415
総資産	57,614	60,203	+2,589

■ 資産に関するポイント

- ・主な内訳は、現金及び預金100.8億(+14.2億)、
商品及び製品158.6億(+1.8億)
有形固定資産113.0億(▲1.5億)、
のれん22.5億(▲0.9億)、
差入保証金78.7億(▲4.7億)

■ 負債に関するポイント

- ・主な内訳は、買掛金90.3億(▲7.2億)、
短期借入金105.0億(▲0.5億)、
1年内返済予定長期借入金1.2億(同額)、
長期借入金29.0億(+21.9億)

■ 純資産に関するポイント

- ・利益剰余金168.5億(+25.1億)、
非支配株主持分16.3億(+9.8億)

連結財務状況 2022年3月期 第2四半期(キャッシュ・フロー)

単位(百万円)

	第2四半期累計 (前年)	第2四半期累計 (当年)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,290	△223
税金等調整前四半期純利益	△1,701	4,626
減価償却費・のれん償却費	1,027	687
雇用調整助成金の未収	△252	△127
仕入債務の増加	1,550	△727
その他合計	667	△4,682
投資活動によるキャッシュ・フロー	△804	△170
固定資産の取得による支出	△608	△499
その他合計	△196	329
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,545	1,813
借入金の増加による収入	5,100	2,210
借入金等の返済による支出	△304	△114
配当金、その他の支出	△251	△283
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額	5,032	1,419
現金及び現金同等物の期首残高	5,714	8,664
現金及び現金同等物の期末残高	10,746	10,083

■ キャッシュフローに関するポイント

<営業活動によるキャッシュフロー>

- ・税金等調整前四半期純利益46.2億、減価償却費5.8億・のれん償却費0.9億、たな卸資産の減1.8億、仕入債務の減7.2億

<投資活動によるキャッシュフロー>

- ・有形固定資産の取得による支出4.9億

<財務活動によるキャッシュフロー>

- ・長期借入金22.6億
- ・配当金の支払額2.8億

連結 2022年3月期 業績予想

●連結 2022年3月期業績予想

- 売上高 1,470億円(前年同期比 ー)
- 営業利益 20億円(前年同期比 ー)
- 経常利益 60億円(前年同期比 317.2%)
- 親会社株主に帰属する当期純利益 29億円(前年同期比 ー)

単位(百万円)

項目	2021年3月期		2022年3月期		
	実績	構成比	業績予想	構成比	前期比
売上高	150,003	-	147,000	-	-
営業利益	△251	-	2,000	1.4%	-
経常利益	1,438	1.0%	6,000	4.1%	317.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	△7,979	-	2,900	2.0%	-

(2022年3月期予想セグメント別)

	酒販事業		外食事業	
	業績予想	前期比	業績予想	前期比
売上高	130,000	-	17,280	-

*セグメント間取引消去等により、セグメントの合計値は連結数値とは一致しません。

連結 2022年3月期 第2四半期業績のポイント

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の急拡大により緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が長期間にわたって発出されるなど、依然として厳しい状況となりました。

酒販事業においては、昨年の緊急事態宣言時は、巣ごもり需要が大きかったこと、前年9月度には、前年10月1日のビール類新ジャンルの増税前に仮需が生じたことから、当四半期累計の売上高は、それに及びませんでした。緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置を発出した自治体が拡大し、飲食店での酒類提供が禁止となり、休業を余儀なくされる飲食店様が増えたこと、東京オリンピック、パラリンピックが開催されたことで更に在宅需要は定着し、多種多様なお品揃えが求められています。

新規出店として、竜舞店(群馬県)、姫路勝原店(兵庫県)、四街道店(千葉県)、小山羽川店(栃木県)、伊川谷店(兵庫県)の5店を開店しました。また、名取店を閉店しました。

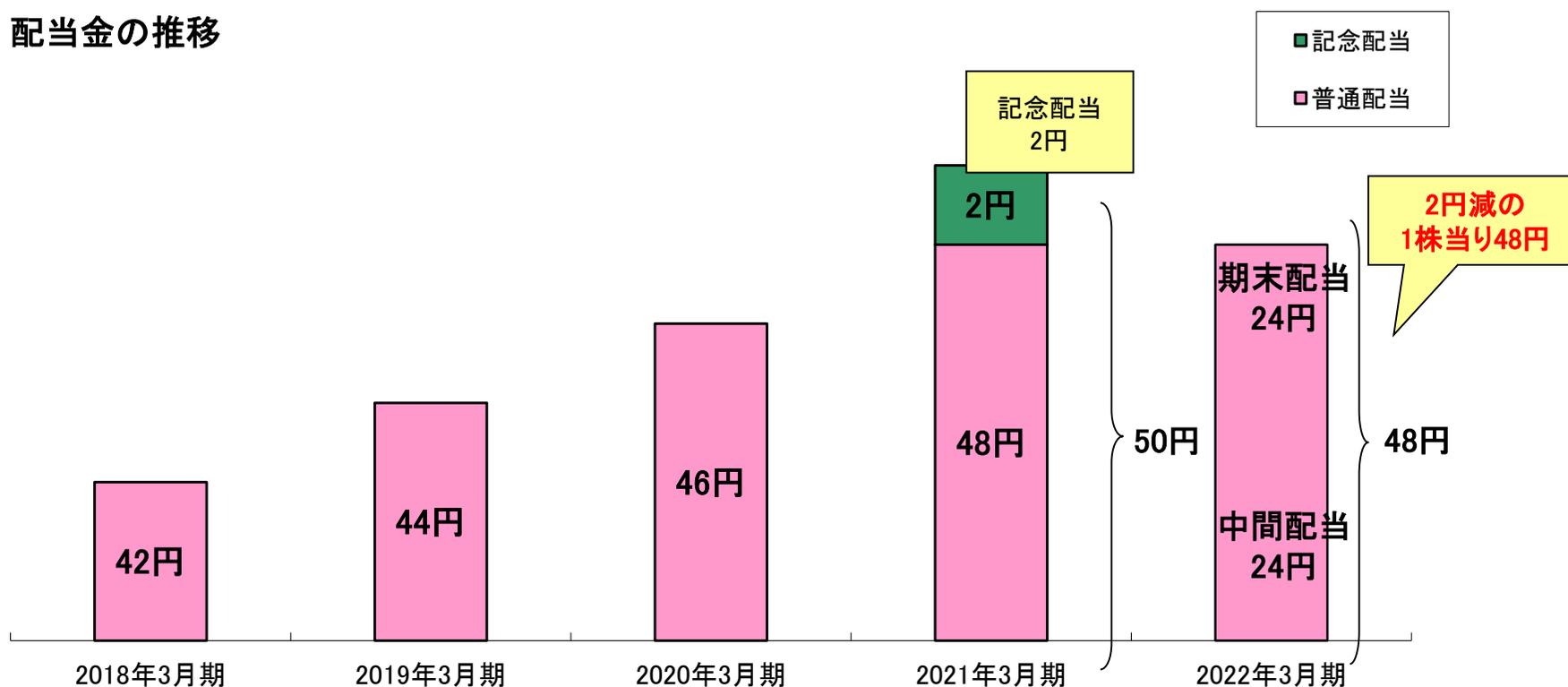
外食事業においては、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置による営業時間の短縮や休業要請、外出及び会食の自粛要請などにより、売上高は大きく影響を受け、引き続き大変厳しい状況が続いております。

「ウィズコロナ」への対応としましては、食事需要及びご家族での利用に対応するとともに、テイクアウトスペースの設置、テイクアウト及びデリバリーメニューの強化、配膳ロボット、卓上サーバーの導入、スマホオーダーへの対応を進めてまいりました。また、お客様のニーズの変化に対応するため、FC店を中心として、ハイブリッド業態(例えば、はなの舞+焼肉牛星など1つの店舗の中に2つの業態を取り入れた店舗)の店舗造りを進め、当第2四半期連結会計期間末においては8店舗となりました。コントラクト事業におきましては、感染拡大防止に努めながら、引き続き、安心安全な「また行きたくなる店舗造り」を心掛けております。

配当政策について

- 当社は、安定的な配当を継続することが配当政策上重要であると考えております。さらに、企業体質の一層の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実を勘案して、株主への配当を実施していくことを基本方針とし、中間配当と期末配当の年2回の配当を行うことにしております。
- この方針に基づき、2022年3月期の中間配当を、直近の中間期決算を考慮し、公表済みの配当予想とおり、1株当たり24円といたしました。期末配当については1株当たり24円、合計1株につき48円を予想しております。

配当金の推移



業態(屋号)別店舗数について(2021年9月末現在)

＜酒販事業＞	店舗数	うちダイソー併設店舗数
やまや	336	40
業務店・通販	9	0
小計	345	40

＜外食事業＞	店舗数	うちFC店舗数
はなの舞	146	82
魚鮮水産・さかなや道場	134	35
豊丸水産	14	－
こだわりやま・やきとり道場	17	17
安べゑ	37	－
牛星・はなの屋・升屋・チムニー等	124	47
コントラクト事業	90	－
つぼ八	152	149
伊藤課長・茜どき 等	31	26
小計	745	356

グループ合計店舗数	1,090
-----------	-------

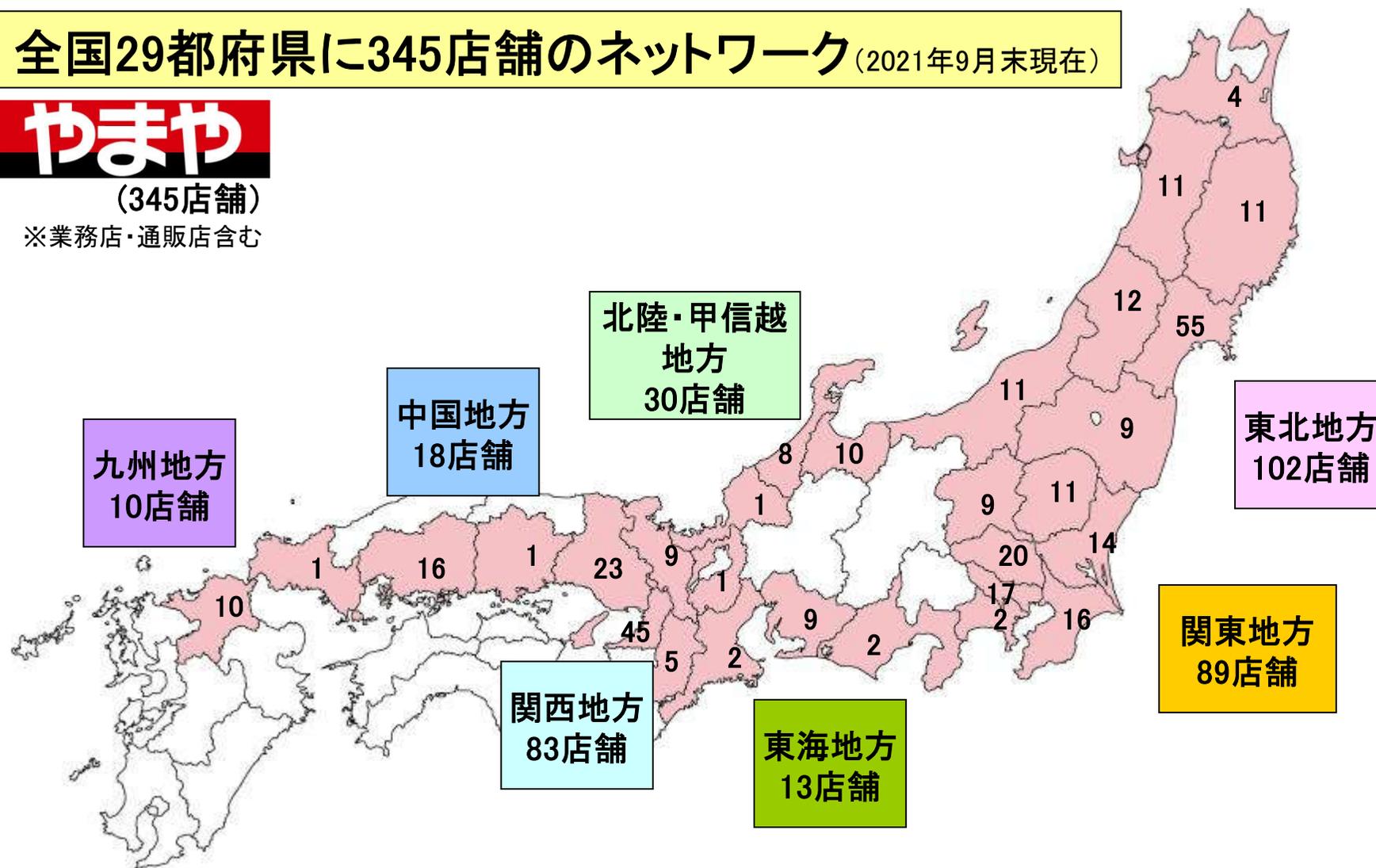
酒販事業 店舗ネットワーク

全国29都府県に345店舗のネットワーク (2021年9月末現在)

やまや

(345店舗)

※業務店・通販店含む

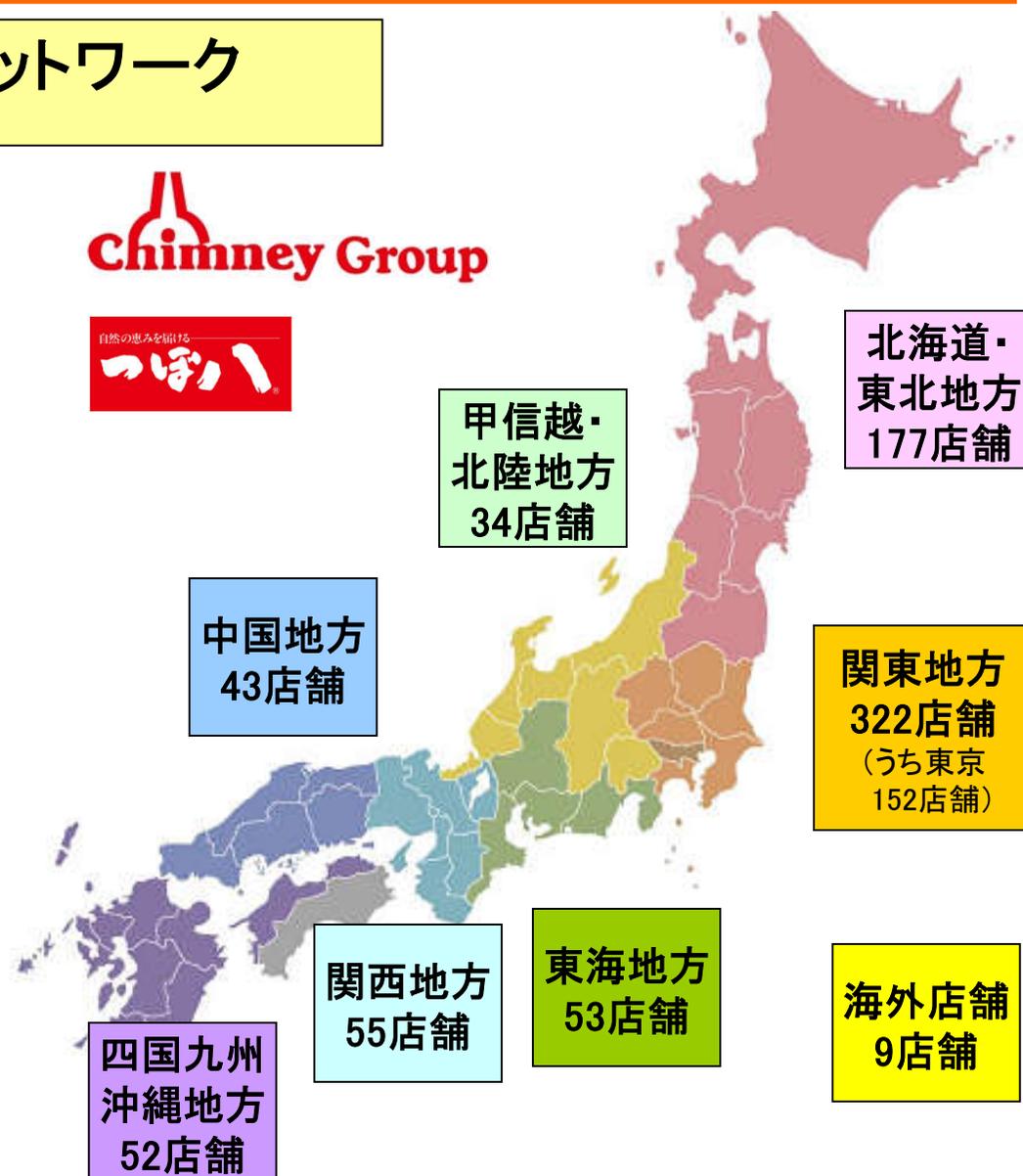


外食事業 店舗ネットワーク

国内外で745店舗のネットワーク

(2021年9月末現在)

	総店舗
はなの舞	146
さかなや・魚鮮	134
豊丸水産	14
こだわりやま・やきとり道場	17
66ダイニング・66カフェ等	7
安べゑ	37
牛星・はなの屋・升屋・チムニー等	89
コントラクト	90
新橋やきとん	18
豊丸 他	10
つぼ八	146
伊藤課長	11
他業態	17
海外店舗	9
合計	745店



重要な連結子会社の状況

名称	資本金	議決権比率	主要な事業内容
やまや関西(株)	45百万円	100.0%	酒類・食料品等の小売
やまや商流(株)	38百万円	100.0%	酒類・食料品等の卸売
やまや東日本(株)	10百万円	100.0%	酒類・食料品等の小売
大和蔵酒造(株)	10百万円	100.0%	酒類・食料品の製造及び卸売
チムニー(株)	100百万円	50.9%	居酒屋を中心とした飲食業
(※1)めっちゃ魚が好き(株)	100百万円	50.9%	居酒屋を中心とした飲食業
(※1) (株)紅フーズコーポレーション	10百万円	50.9%	居酒屋を中心とした飲食業
(※1)魚鮮水産(株)	20百万円	42.5%	漁業、鮮魚の仕入及び販売
(※1)大田市場チムニー(株)	5百万円	50.9%	鮮魚・青果等の仕入及び販売
(※2)(株)つぼ八	50百万円	56.0% (34.0%)	居酒屋を中心とした飲食業
(※2)つぼ八酒類販売(株)	10百万円	56.0% (34.0%)	酒類の卸売

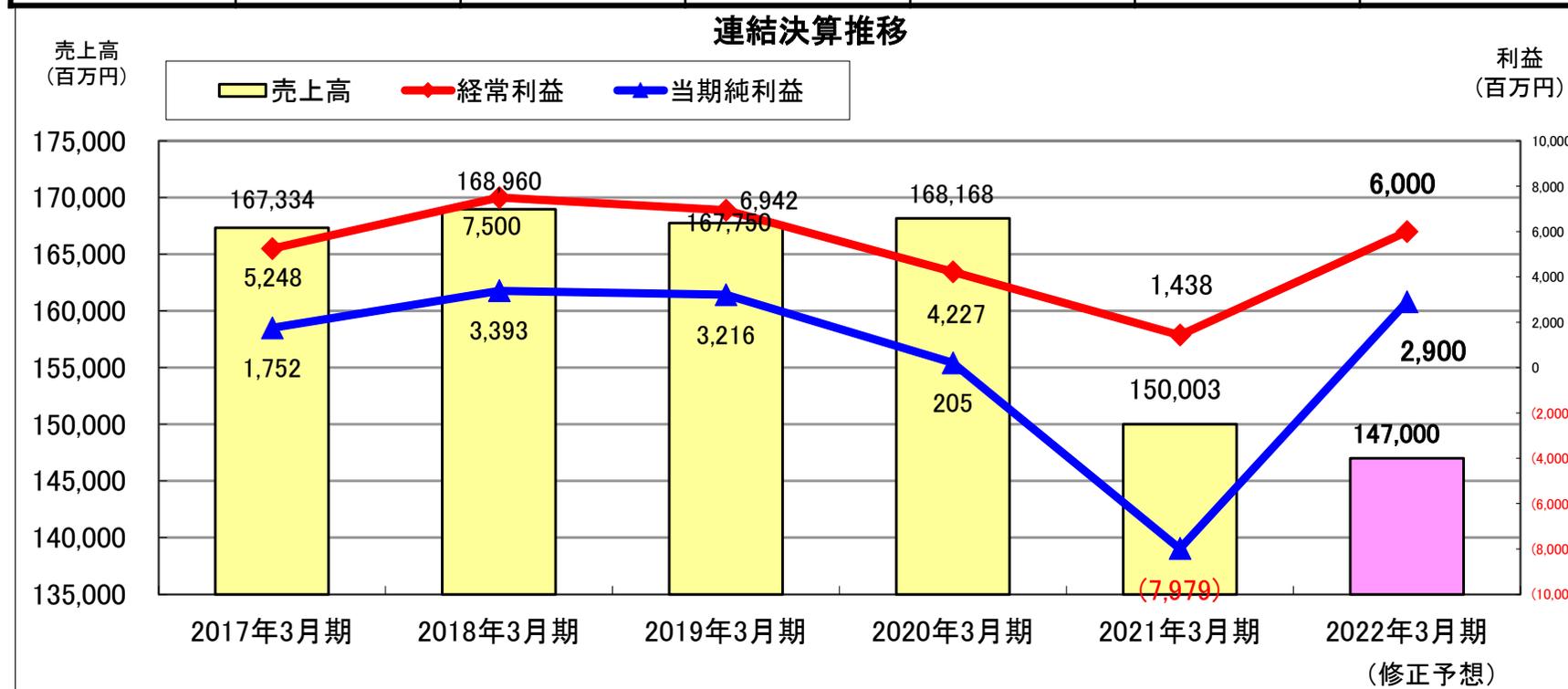
(※1)めっちゃ魚が好き(株)、(株)紅フーズコーポレーション、魚鮮水産(株)、大田市場チムニー(株)の3社はチムニー(株)を通じた間接保有の連結子会社です。チムニー(株)の3社の議決権比率は、めっちゃ魚が好き(株)、(株)紅フーズコーポレーション及び大田市場チムニー(株)は100%、魚鮮水産(株)は83.4%となっており、それぞれに(株)やまやのチムニー(株)の議決権比率51.2%を乗じたものが、これら3社の議決権比率となります。

(※2)議決権比率()内は、当社子会社であるチムニー(株)の保有率です。つぼ八酒類販売(株)は(株)つぼ八を通じた連結子会社です。(株)つぼ八の議決権比率は100%であり、それに(株)やまやの(株)つぼ八の議決権比率56.0%を乗じたものが、つぼ八酒類販売(株)の議決権比率となります。

連結決算推移

単位(百万円)

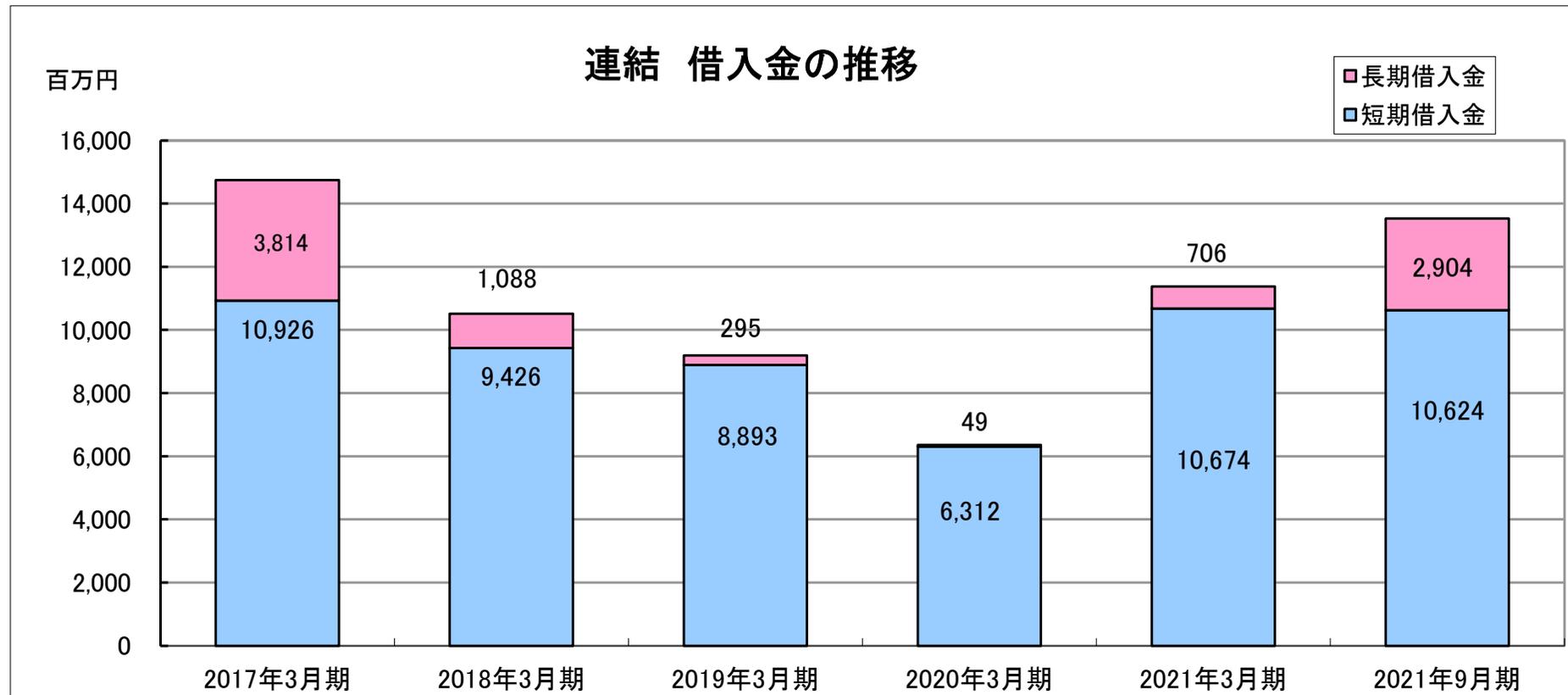
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 業績予想
売上高	167,334	168,960	167,750	168,168	150,003	147,000
営業利益	5,255	7,411	6,894	4,163	△251	2,000
経常利益	5,248	7,500	6,942	4,227	1,438	6,000
当期純利益	1,752	3,393	3,216	205	△7,979	2,900



連結 借入金の状況

単位(百万円)

	'17年3月期	'18年3月末	'19年3月末	'20年3月末	'21年3月末	'21年9月末
短期借入金	10,926	9,426	8,893	6,312	10,674	10,624
長期借入金	3,814	1,088	295	49	706	2,904
合計	14,740	10,514	9,188	6,361	11,381	13,529



E.O.F

【本資料に関する注意事項】

本資料は、本年11月9日に発表しました「2021年3月期 第2四半期決算短信」の参考資料として、2021年3月期 第2四半期の業績動向を補足説明することを目的として作成したものです。本資料に掲載されている株式会社やまや及び連結の業績見込み、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実な要因によっては、大きく変化する可能性があります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますよう、お願い申し上げます。

第2部：セグメント別 2022年3月期 第2四半期の業績

酒販事業 2022年3月期 第2四半期実績

●酒販事業 2022年3月期 第2四半期実績

- 売上高 665.7億円(前年同期比 -)
- 営業利益 24.5億円(前年同期比 ▲24.4%)

単位(百万円)

項目	第2四半期累計 (前年)	構成比	第2四半期累計 (当年)	構成比	前期比
売上高	69,592	-	66,574	-	-
売上総利益	14,420	20.7%	13,428	20.2%	-
販管費	11,168	16.0%	10,969	16.5%	-
営業利益	3,251	4.6%	2,458	3.7%	▲24.4%

酒販事業 2022年3月期 第2四半期 主要数値の内容

■ 売上高665.7億円(前年同期比 -)

- ・既存店 28.7億円減(前年同期比 Δ 4.3%)
- ・全店 20.0億円減(前年同期比 Δ 2.9%)

※既存店・全店実績は、「収益認識に関する会計等の適用」前で記載しております。

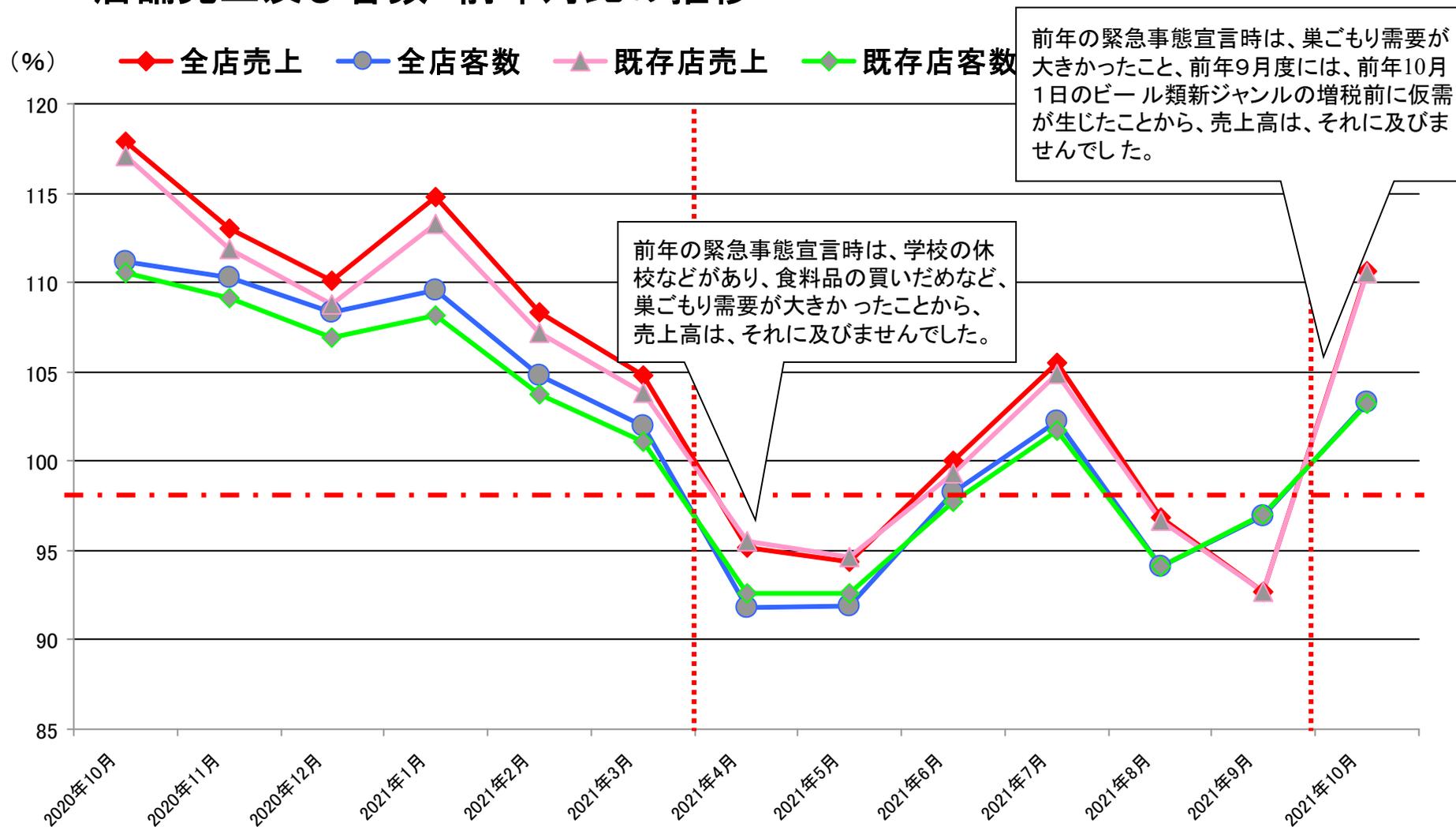
■ 売上総利益率 20.2%(前年同期比 -)

■ 営業利益率 3.7%(前年同期比 \blacktriangle 1.0ポイント)

酒販事業においては、昨年の緊急事態宣言時は、巣ごもり需要が大きかったこと、前年9月度には、前年10月1日のビール類新ジャンルの増税前に仮需が生じたことから、当四半期累計の売上高は、それに及びませんでした。

酒販事業 2022年3月期 第2四半期の業績

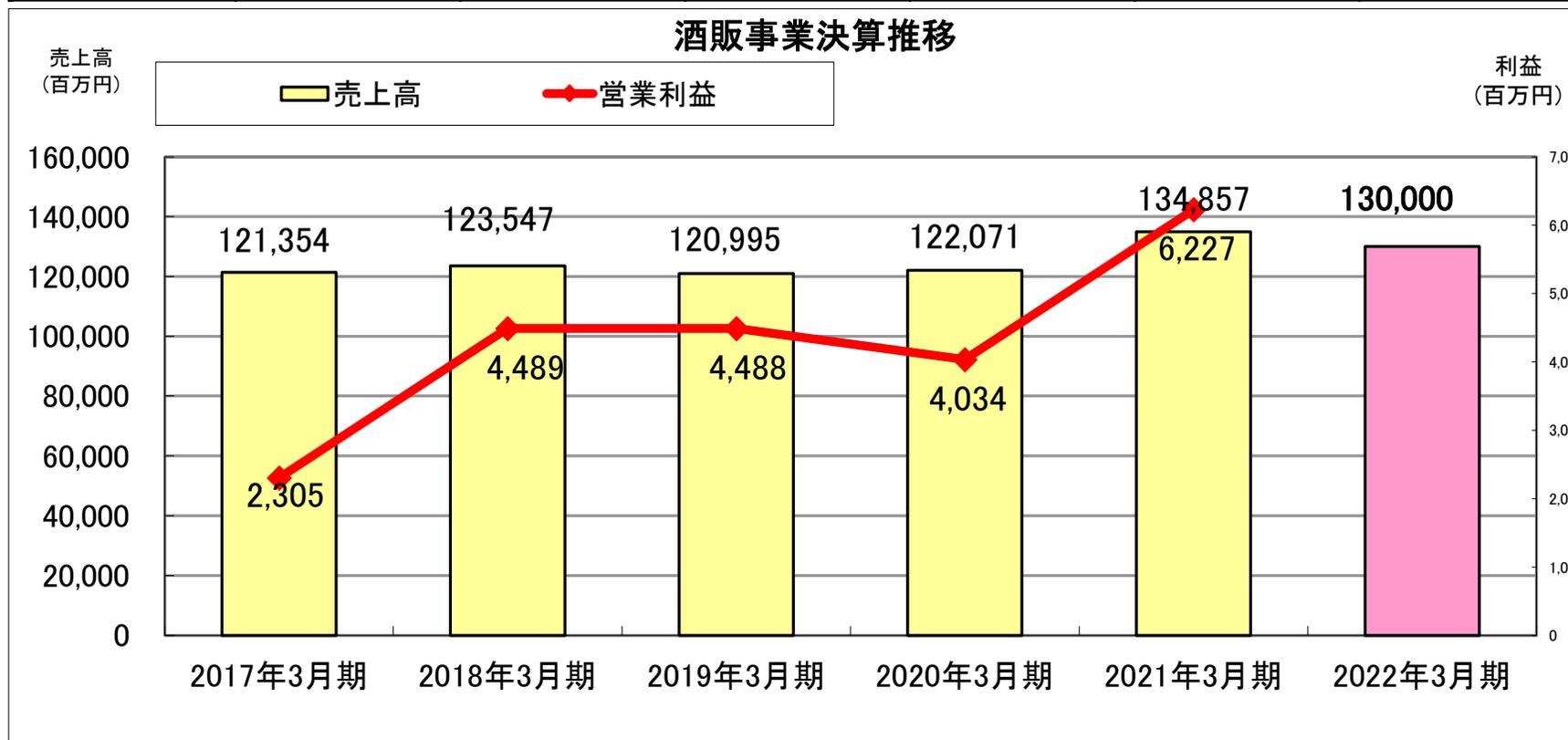
店舗売上及び客数 前年対比の推移



酒販事業 決算推移

単位(百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (計画)
売上高	121,354	123,547	120,995	122,070	134,857	130,000
営業利益	2,305	4,489	4,488	4,034	6,227	



外食事業 2022年3月期 第2四半期実績

●外食事業 2022年3月期 第2四半期実績

- 売上高 38.1億円(前年同期比 -)
- 営業利益 △23.5億円(前年同期比 -)

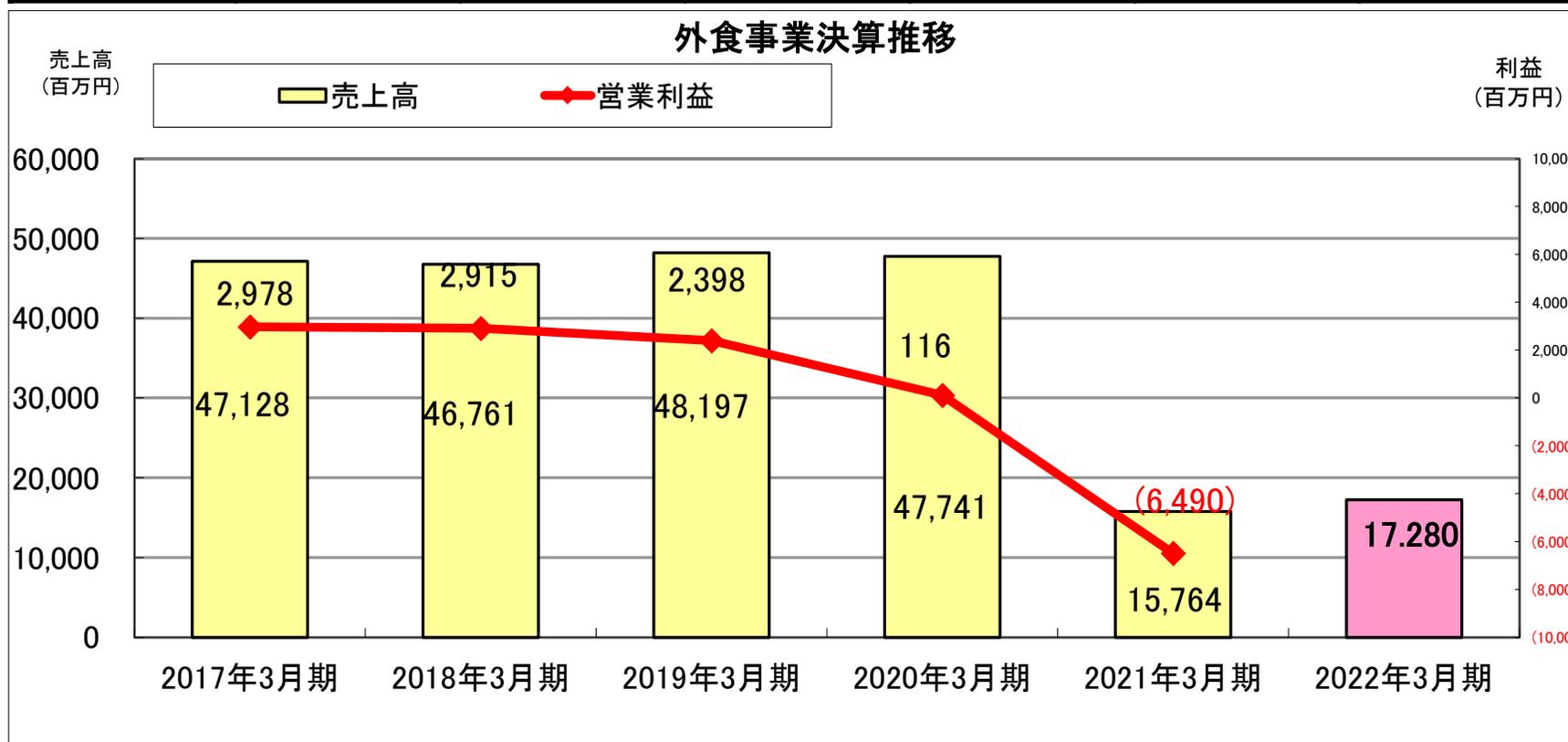
単位(百万円)

項目	第2四半期累計 (前年)	構成比	第2四半期累計 (当年)	構成比	前期比
売上高	7,411	-	3,814	-	-
売上総利益	4,882	65.9%	2,508	65.8%	-
販管費	9,037	121.9%	4,863	127.5%	-
営業利益	△4,155	-	△2,354	-	-

外食事業 決算推移

単位(百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (計画)
売上高	47,128	46,761	48,197	47,741	15,764	17,280
営業利益	2,978	2,915	2,398	116	△6,490	



E.O.F

【本資料に関する注意事項】

本資料は、本年11月9日に発表しました「2021年3月期 第2四半期決算短信」の参考資料として、2021年3月期 第2四半期の業績動向を補足説明することを目的として作成したものです。本資料に掲載されている株式会社やまや及び連結の業績見込み、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実な要因によっては、大きく変化する可能性があります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますよう、お願い申し上げます。

注意事項

この説明会資料に掲載されている、現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいたものであり、実際の業績等は、さまざまな要因により、見通しと大きく異なる結果となりうることをあらかじめご了承ください。

掲載内容には細心の注意を払っておりますが、当社および情報提供元は、情報の完全性、正確性、確実性、有用性、その他の保証を行うものではありません。掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関して、当社は事由の如何を問わず一切責任を負いません。

なお、この説明会資料は投資勧誘を目的としたものではありません。実際の投資の際は、当情報に全面的に依拠することなく、皆様ご自身のご判断でお願い申し上げます。